

町民一人一人が生きがいを感じられる元気な小海町づくりのために



小海町長
黒澤 弘

明けましておめでとうございます。町民の皆様には希望に満ちた輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返ってみると、とにかくコロナ一色だったという感想しか思い浮かばないような年でした。当町におきましても四月初めての感染者が確認され、その後現在まで五名の方の感染が確認されました。幸いにもどなたも重症化することなく回復され、クラスターも発生することなく終息いたしました。町民の皆様の感染予防へのご理解も危惧されておりましたが、

このご信任をいただいて町政を担当させていただくようになります。四年が経とうとしておりました。この間を振り返りますと、就任当初から推進してきました「憩うまちこうみ事業」は、コロナということは予想もしなかつた頃からの取り組みですが、今になってみればウイズコロナ・アフターコロナ時代には無くてはならない事業になりました。現在十八社の企業の皆さんと協定を交わし、緊急事態宣言終了後から徐々にセラピー体験にお越しいただいております。また、その中の一社は町内に支社を設置し、地域おこし事業にも取り組んでいただいております。またもう一社の会長さんは、ワインブドウづくりを応援したいということで、町内の空家に移住し支援しているだけのことになつておりました。今後希望される皆様には千曲病院で対応していただくことになつておりますので役場保健係にご相談ください。また三回目の接種は、三月中旬を目途に接種を開始する準備を進め参ります。新たな変異株であるオミクロン株の流行

の中の一団体として受賞しました。定住促進事業としては、土村新田地区に八戸の雇用定住促進住宅の建設、本間大田団地十九街区がすべて完売したため、令和五年度販売開始を目指して、現在、本間村上地区に三十七区画の住宅団地造成の計画を進めています。

「積極的に挑む町、元気な小海町づくり」を公約に掲げ、行政経験のない私が皆様のお力を借りし、希望に満ちて船出をしたわけですが、途中新型コロナ感染症というかつて経験したことの無い嵐に遭遇し、任期の半分を未知のウイルスとの戦いに費やす日々となってしまった。この二年間、失われたものも多々ございますが、このような事態がなければ見えなかつたもの、新たな価値観のよ

うなものが沢山生まれたのではないかと思思います。地方の時代と言われてから幾久しいわけですが、今後社会は、地方の時代に向けて大きく変わっていくのではないかという予感がしてあります。そしてそのような中、町民一人一人が生きがいを感じられる元気な小海町づくりのため、任期は、わずかとなりました

が精一杯取り組みたいと考えております。そこで、町民の皆様が、ご健康で幸多い年でありますことを心からお祈り申し上げ、年頭のごあいさつといたします。

この時代と言われてから幾久しいわけですが、今後社会は、地方の時代に向けて大きく変わっていくのではないかという予感がしてあります。そしてそのような中、町民一人一人が生きがいを感じられる元気な小海町づくりのため、任期は、わずかとなりました

が精一杯取り組みたいと考

えております。

結びに、町民の皆様が、ご健康で幸多い年でありますことを心からお祈り申し上げ、年頭のごあいさつといたします。